

平成 29 年度一般社団法人えんがる町観光協会 第 7 理事会 議事録

1. 開催日時 平成 29 年 10 月 30 日 13 時 30 分
2. 場 所 木楽館研修室
(北海道紋別郡遠軽町南町 3 丁目)
3. 出席理事 代表理事 遠藤利秀
業務執行理事 伊藤友彦、矢木 優、杉本一幸、中村康男
理事 高橋義詔、益井伸也、岩上孝義、磯貝勝幸、橋本政司、藤井 勇、秋田 博
4. 欠席理事 理事 高橋泰行、柴田和浩、今野政男、山崎幸治、田中文章
5. 出席監事 高橋秀視、高橋 久
6. 欠席監事 なし
7. 議 長 代表理事 遠藤利秀
8. 事務局 事務局長 村上武志、事務局次長 福田比呂子、事務局員 保科達矢、
丸瀬布地域事務担当 工藤敏広、白滝地域事務担当 竹内紀久夫、生田原地域事務担当 福田幸雄
9. 議事録作成者 事務局長 村上武志

10. 議事の経過の概要及び議決の結果

事務局長は出席理事数を確認し本理事会議案が過半数である 7 名以上をもって議決されることを確認して議事に入った。

(1) 報告第 1 号 遠軽 IC 道の駅駅長候補者のご紹介

議長は、遠軽 IC 道の駅駅長候補者として平成 29 年 11 月 1 日に勤務開始となる佐藤茂氏について、同席していた遠軽町役場地域拠点施設準備室の今井昌幸参事に紹介を求めた。

今井昌幸参事は佐藤茂職員について、採用までの概要を説明した後、本人に自己紹介を求めた。佐藤茂氏は、これまでの経歴等を含めた自己紹介をし、今後の意気込みを述べた。

佐藤茂氏にはここで退室頂き、その後、事務局長は当該施設について、遠軽 I C 道の駅検討協議会及び幹事会等での協議事項について、進捗状況を説明した。

(2) 報告第 2 号 新規職員（事務局スタッフ）の紹介

議長は、新規職員として平成 29 年 10 月 2 日付採用の保科達矢事務局員を紹介し、本人からの挨拶を求めた。保科達矢事務局員は、自己紹介とともに今後の意気込みを述べ、挨拶とした。

(3) 報告第 3 号 事業経過報告

議長は、事業経過報告について事務局に報告を求めた。

事務局長は平成 29 年度のこれまでの主な事業について報告、説明を行った。さらに今年度の今後の事業について、予定されているイベントスケジュールを確認した。

(4) 議案第 1 号 平成 30 年度事業計画（案）

(5) 議案第 2 号 平成 30 年度事業予算（案）

議長は、議案第 1 号と議案第 2 号は関連性があるとし、一括して事務局に説明を求めた。

事務局長は資料に沿って全体を説明した。特に平成 29 年度と比較して大きく変化する部分についてその理由も含め詳しく説明した。単年度事業一道の駅準備費用及び道の駅候補者人件費について役場からの資料に基づいて計上していることを説明し、詳細は議案第 3 号にて触れると述べた。

議長は平成 30 年度事業全体について意見を求めた。

磯貝勝幸理事は、各イベント名の漢字表記と平仮名表記について混同しない様にと事務局に指摘した。

岩上孝義理事は、遠軽地域の人口に対する会費収入が少ないことを指摘した。

議長は、人口割合から考えると少ない点を確認し、指摘に対して理解を示した。

中村康男業務執行理事は、遠軽地域には大手チェーン店が多いことについて触れ、かつて会員募集に廻った際にそれぞれ本社に確認するという断られた経緯があることを説明した。また、北見市も大手ホテルなど、同様の現象が起きていることを説明した。さらに具体例として、道東コープや北電も責任者が変わる際に脱会してきたという、ある種“お家の事情”があるとの考えを示した。

議長は、会員の中身は知らないが、精査して考えていきたい考えを示した。

藤井勇理事は、大手企業が一番恩恵を受けているはずだとの見解を示した。

磯貝勝幸理事は、社会福祉協議会も同様であることを例にとり、大きな地域になると会員に入らない傾向があるという状況を説明した。その上で、会長や専務理事が直接訪問して話をし、付き合いの中でせめて1万円くらい、となっていくことに対する期待を込めた意見を述べた。

中村康男業務執行理事は、大手企業については、入会されても店の責任者の個人的なポケットマネーでの加入になる為、転勤異動でいなくなったらそこで終わり、というのが現状であると説明した。

磯貝勝幸理事は、店の責任者が異動する際には、入会している状況も全て引き継いでもらいたいとの考えを示した。

議長は議案第1号、議案第2号について、その他の意見が無いことを確認し、この内容で役場に要望していきたい旨の考えを示し、承認を得た。

(6) 議案第3号 遠軽 IC 道の駅について

議長は、遠軽 IC 道の駅について概要を説明した後、事務局に詳細の説明を求めた。

事務局長は今年度採用となった佐藤茂氏の人件費について町で補正予算を組む事になったこと、具体的には5カ月分の265万円が、年度当初の事業予算に加算されることを説明した。続けて、駅長候補者である佐藤茂氏の勤務形態が役場ルールと観光協会ルールの入り混じった複雑なものであることを説明した。また、議案第2号の予算書(案)の中の遠軽 IC 道の駅に関する部分について詳細を資料に沿って説明し、その上で、10月16日(月)の正副会長会議の中で出された意見を紹介した。

議長は、議案第3号についての説明と資料の内容についての意見を求めたが、特に意見無く承認を得た。

(7) 議案第4号 (仮称) 遠軽町民センターについて

議長は、(仮称) 遠軽町民センターについて事務局に説明を求めた。

事務局長は、平成29年1月に事務局所在地を(仮称) 遠軽町民センター内に要望した件、そして町民センター内は手狭な為、旧ふぁーらいと内で町は検討を始めている件について、あらためて説明し、その上で、旧ふぁーらいとに入る場合の、町が考える図面(案)について説明した。

藤井勇理事は、町の町民センター検討協議会に観光協会から誰が出席しているのかを確認し、その上で、協議の場には町が抱えるコンサルタントなどのプロのみで話を進めるのではなく、素人の意見も重要であるとの考えを示した。続けて、町民センターは少なからず観光の要素も担っており、観光協会としても会長や副会長といった役員が、協議の場に出て意見を述べても良いのではないかとの考えを示した。

矢木優業務執行理事は、これらはあくまでも案であって、確定したものではないことを確認し、事務局がどこに入るかは不明であることを述べた。

藤井勇理事は、事務局が入るか入らないかの前に、観光として大事な施設であるとの考えを示した。

矢木優業務執行理事は、会長と事務局長とで常に協議していることを確認した。

議長は、事務局長が観光協会を代表して会議に臨んでいることに触れ、今後も意見や要望等々は事務局長を通して町に訴えていく体制を取っていくことが重要であるとの考えを示した。

議長は、他に意見が無いことを確認し、議案第4号についての承認を得た。

(8) 議案第5号 ファーイーストカップジャパンシリーズ 2018 について

議長は、ファーイーストカップジャパンシリーズ 2018 について事務局に説明を求めた。

事務局長は、開催日程について説明し、近日中に教育委員会の担当者と、互いにどう係わっていくかについて協議する予定となっていることを説明した。

議長は、当大会の組織委員長である高橋義昭理事に詳細説明を求めた。

高橋義昭理事は、大会の概要を説明した後、ワールドカップ出場の登龍門と位置づけられている世界的に見ても大きな大会であることを述べ、世界トップクラスの出場選手のハイレベルなスキーを多くの人に見てもらいたいとの考えを示した。

議長は、非常に大きな大会であるとの認識を示し、今回は観光協会としても協力して PR していきたいとの考えを示した。

藤井勇理事は、とても大きなカップだが、町民が知らない点について原因は何なのかとの疑問を呈した。

高橋義昭理事は、PR 不足に尽きると述べた。

藤井勇理事は、あらためて観光協会の役割は大きいとの考えを示した。

高橋義昭理事は、スポンサーからも大会の PR について指摘されていることを述べた。そして、かつてスキー授業の一つとしてはどうかという意見があったが、3月には授業が既に終わっていて難しい、といった議論があったことを紹介した。

藤井勇理事は、この大会はとても大きく、全てのイベントの上を行くものであると述べ、全町で支えたいとの考えを示した。また、早めに検討していく必要があることも加えた。

議長は、今後観光協会としてしっかり PR していく必要があるとの考えを示した上で、他に意見が無い事を確認し、議案第 5 号についての承認を得た。

以上をもって発議、意見開陳は無しと認められたので、議長は議事を終了した旨を述べ、15:00 に閉会した。

以上の決議を明確にする為この議事録を作成し議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

平成 29 年 10 月 30 日

平成 29 年度 一般社団法人えんがる町観光協会 第 7 回理事会

議長 会長（代表理事）

印

監事

印

監事

原本には記名・捺印あり

印